

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0895400034		
法人名	株式会社 マルシン		
事業所名	グループホーム レガート(B棟)		
所在地	茨城県鉾田市青山1542-1		
自己評価作成日	2022年1月16日	評価結果市町村受理日	2022年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0895400034-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

増床後、A棟同様に施設全体の理念である「異体同心」の気持ちを大切に、ご利用者様・ご家族はもちろん、職員同士であっても相手を思いやる気持ち、相手を受け入れる気持ちを忘れずに業務を行っています。また、チームケア・個別ケアの重要性について職員全員が理解できるよう話し合いを行い、ご利用者様一人一人が望む生活を送ることが出来る様日々努力しています。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ご利用者様の感染予防はもちろんですが、職員が施設内に持ち込まない為の対策、また感染が疑われる時の対応を周知するなど感染対策を徹底しています。職員は制約のある生活を送る日々となっていますが、お互いに確認しながらご利用者様が元気に過ごすことが出来る様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、気になった事があれば、業務時間やミーティング時にその都度話し合いを行い、施設の理念を理解したうえで共有し実践できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方に運営推進会議の委員になっていただいたり、地元の理髪店の方に散髪に来ていただいたり、地元の消防団に避難訓練に参加していただき交流を図ってきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外部の方との接触を控えており、外部の方が参加する会議等を行っていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所やサービス等の相談があった場合は、感染対策の為電話対応となってしまいますが、その都度対応しています。(以前は、認知症サポーター養成講座開催の協力等してきましたが、現在は開催されていません。また、開催される時には協力し、地域の方々に認知症の方の理解や支援方法を伝えたいと思います。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続き、外部委員を交えた会議は行えない為、職員のみで行っています。議題としては新型コロナウイルス関連、面会方法等について話し合いを行い、内容を他の職員に周知しました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とはその都度、連絡・相談・報告を行い、良い関係が築けるようにしています。昨年に引き続き、新型コロナウイルス関連等の情報をメールで送っていただいたり、対応で迷うことがあれば電話にて相談し指示をいただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや施設内研修の際に、言葉の拘束も含め身体拘束で起こる弊害を職員が理解できるようにしています。また、身体拘束等廃止促進担当を決め、定期的に担当会議を行う事で各棟の対応方法の確認を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修参加が難しい状況の為、虐待に関する資料を集める等し、その資料を使って施設内研修を行うようにしています。施設内で虐待が行されないよう、職員同士悩みがあれば話をする時間を作り、業務を行うようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用し金銭管理等をお願いしているご利用者様が1名いらっしゃいます。今後も成年後見制度等利用が必要な方が出てまいりように、管理者は制度を理解し対応が出来る様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族に確認しながら説明。不安や疑問に思ったことがあればその都度対応し解決できるようにしています。解約時や変更時にも十分説明し理解していただけるよう対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からの意見や希望は普段の生活の様子からの気づきを大切に、その都度解決・対応できるようにしています。ご家族からは電話にてご本人の様子をお伝えする際にお聞きできるようにし、その情報は申し送りやミーティング等で職員が共有できるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はミーティング時や業務中など提案が上がった時に管理者が話を聞くようにしています。個別に話を聞いた方が良いと管理者が判断した場合は、時間を作り話を聞くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況等を把握できるようにし、その働きに応じて評価をし、職員が意欲をもって就業できる環境づくりに努めています。昨年に引き続き、代表者が以前の様に立ち寄ることが難しい状況となっておりますが、ホーム長や管理者より施設の状況を伝えるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して施設内研修の計画を立て、職員が成長できるようにしています。昨年に引き続き、外部研修に参加するのが難しい状況でした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者を集めて行われる研修等には出来るだけ参加をするようにしています。ただ、リモートでの研修が多い為、以前の様な交流をする事が難しい状況です。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人に直接会ってお話を聞くようにしていましたが、感染状況によっては対面が難しい時もあり、情報のやり取りだけの場合もありました。ご家族からも必ず電話で話を伺うようにしています。入所後も不安や戸惑いがあると思われる為、職員は声掛けや様子観察を行いながら、その都度対応が出来る様になっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にお話をする機会を設けていますが、今までの様に施設内で対面での対応が難しい状況の為、電話で対応する様にしています。また、入所の受付をするだけでなく、困ったことや不安に思っていることがあれば、入所前あっても対応し、ご家族の不安が解消できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前同様、ご本人・ご家族よりお話を伺い必要としていることがあれば支援出来る様になっています。医療に関することがあれば、かかりつけ医や看護師に入所前に相談し、入所後すぐ対応が出来る様になっています(在宅酸素等)。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と職員といった関係ではなく、もっと近い存在になれるよう、職員はご利用者様と一緒に生活をする者として寄り添い、喜びや悲しみも一緒に共感しあえる関係を築けるように努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様同様、ご家族と職員といった線を引いた関係ではなく、喜びや不安、悲しみを共有し、ご利用者様と一緒に支えあう関係が築けるよう努めています。ご家族によってはメールやLINEにて連絡が行えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、直接顔をあわせての面会が難しい状況の為、電話や窓越しでの面会となっています。ご家族には今までの馴染みの関係の方からご連絡いただいても大丈夫な事を説明。知人や友人の方から電話をいただくなどし、馴染みの関係が続けられるようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者様同士の会話は聞いているものの、出来るだけ入らないようにしています。内容によって職員が入った方がいいと思われた場合も必要最低限とし、ご利用者様だけのふれあいの時間を奪わないようにしています。ただ、感染対策としてマスクの着用やアクリル板の設置を行ってから、ご利用者様同士のコミュニケーションが以前より取りづらくなってしまった為、職員に係る事が増えました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了と共に関係を終わらせるのではなく、退所後サービスが必要であれば後任のケアマネージャー様に情報提供を行い、退所後に安心した生活を送ることが出来る様支援しています。また、退所後に相談があればその都度対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本人より聞き取りが出来る場合は日常会話やご本人の様子を通して、希望や意向の把握が出来る様にしています。希望を訴えるのが難しい方の場合は、ご家族と話し、その方らしい生活が送れるよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、どのような生活を送ってこられたかをご本人・ご家族よりお伺いし、出来るだけ把握できるようにしています。入所後新たに分かることもある為、その時には職員全員が共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に確認した生活歴をもとにし入所後もその方らしい生活が送れるように努めています。入所後に状態が変わることもある為、こまめに観察を行い、その時の状態に合わせた対応が出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を作成する場合には、ご利用者様の希望(無理な場合はご本人の状態に合わせて)・ご家族の意向・かかりつけ医からの指示・毎日接している職員からの意見を反映した計画が作成出来る様にしています。職員からは、ミーティングや業務中に話を聞くようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様ごとに個別ファイルを作成し、生活の様子・食事量・バイタル・排泄等を記録し、必要時には日誌等に申し送りをし確認することで状況や経過の把握が出来る様にしています(日誌は出勤時に確認し、押印することにしてます)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症という病気の為、日々状況が変化すること利用者様もおられます。その方にとって一番良い生活とは何かを職員全員で常に考えながらサービスが提供できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来るだけ行うようにし、中でも警察署・消防署(消防団含む)とは連絡をとりながら、何かあった際の協力をお願いします(その他の地域資源に関してご本人やご家族からのご希望が今のところない為、個人的なご利用はありません)。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設で契約しているクリニックの受診や相談が基本となっていますが、希望があれば他の病院への受診対応を行っています(入所前にご家族に説明・確認を行っています)。かかりつけ医とは良好な関係が築けており、日常的な相談も受けていただいています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活において、気になる事や不安に思ったことは看護師に相談し対応できるようにしています。場合によっては看護師から医師へ連絡をいれてもらい、適切な対応が出来る様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合、入院時には必ず付き添い、医師からの説明を受け、状況が把握できるようにしています。入院が長くなる場合はご家族や病院に状況の確認をし病院関係者との関係作りが出来る様に務めています。退院前にも状況を確認し、退院後の生活がスムーズに送れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずはご家族の意向を確認したうえでかかりつけ医に相談。その後、ご家族・管理者・かかりつけ医と話し合いを行ったうえで今後の方針を決定。かかわりあう全員が方針を共有し支援するようにしています。状態が安定しない方もいらっしゃる為、その都度かかりつけ医や訪問看護師に相談し、ご家族に報告するようにしています。入所契約時に同意書にて説明を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に対応方法の訓練を行ったり、施設内研修を行うようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の他、避難経路・避難方法については色々な状況(火災場所や火災発生状況)を想定し、話し合いやシミュレーションを行うようにしています。災害時等の協力を消防署や地元の消防団等へお願いしております(昨年に引き続き、今年度も職員・ご利用者様で訓練を行っています)。自家発電の設置をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様それぞれ個人に合わせた声掛けや対応を心掛けています。必要に応じて居室の入口の窓に目隠しをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がすべてを決めるのではなく、ご利用者様に確認し決めるようにしています。確認方法もご利用者様の状態に合わせた質問の仕方をするようにし、出来るだけご本人がご自分の意見を出せる様に工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様に合わせた対応をするように気を付けています。起床や食事時間はその方の希望する時間やその方の状態に合わせています。職員は業務中心ではなくご利用者様中心となるよう心掛け、ご利用者様が望む暮らしが送れるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴等で服を選ぶ場合、出来るだけご本人と一緒に選ぶようにしています(ご自分で出来る方はご本人にお願いしています)。ご自分で選ぶ事が難しい方は、職員がその方らしい服装になるよう心掛けて服を選ぶようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の邪魔にならない程度に職員が見守りを行っています。出来る方に下膳や食器洗いのお手伝いをお願いし一緒に行うようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は必ずチェックし食事量が減ってきた方はかかりつけ医に相談。栄養剤(エンシュア)等での対応を行っています。また、ご本人の状態や採血結果から栄養状態をみていただき経過観察する事もあります。食事量が減る事によって脱水が起こる心配もある為、場合によっては点滴を行うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、職員が声掛けし確認しています。ご利用者の状態や必要に応じて介助や見守りを行っています。義歯は夜間お預かりして消毒し、翌朝お返しするようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツ等を使用しない支援をしていますが、下着の汚れ等によっては尿取りパットを使用するようにしています。尿取りパットやリハビリパンツを使用している方でもトイレでの排泄が可能な方は、時間をみてトイレ誘導・声掛けを行いトイレでの排泄が出来る様にしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、水分を多めに摂取していただいたり少し体を動かすよう声掛けを行っています。また、医師へ相談し、薬での調節を行っています。必要な方は排泄チェックを行い便秘にならないよう気を付けます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の目安とする予定日は決めてありますが、予定日にはご本人に必ず確認。最低でも週2回は入浴できるよう午前・午後の時間を使って入浴を行っています。希望によっては入浴日以外の入浴にも対応しています。入浴できなかった場合やご本人の希望・状態によっては清拭・足浴等の対応をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の記録や夜勤者からの申し送り等にて睡眠時間の確認を行っています。起きてしまう方、なかなか寝付けない方はお話をするなどに対応をしています。睡眠時間が少なく日々の生活に支障が出してしまう方は、かかりつけ医に相談し、薬の処方も検討。服用となった場合は、経過観察を行い、かかりつけ医に定期的に報告し調整を行うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者様がどのような薬を服用しているかを把握し、指示通り服薬が出来る様になっています。また、薬の変更や追加となった場合は必ず経過観察を行い、かかりつけ医にその都度報告。場合によっては変更等の調整を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いやテーブル拭き、新聞折り、洗濯たたみ等ご自分の得意な事・出来る事を行っていただいています。また、季節の壁面飾りを職員とご利用者様で作成しています。本や新聞を談話室に置いて、ご利用者様の好きな時に読むことが出来る様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ご利用者様の外出は難しい状況です。大きな行事や外出が出来ないかわりに施設でのバーベキューを感染対策を行った上で行いました。以前の様に外出や大きな行事などご利用者様が楽しめる行事が出来る日が来ることを日々望んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つこと・自分で使う事の大切さは理解していますが、ご家族の希望によりお金をご自分で持てる方がほとんどおらず、ご利用者様全員の支援は難しい状況です。ご自分で持つことが出来る方は職員が管理の上で使用できるよう支援していますが、現在は外出が難しい状況の為行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用の希望があればいつでも利用できるよう対応しています。昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ご家族や知人の方とのコミュニケーション方法として電話の利用が増えました。携帯電話を持参されている方もおり、ご家族と好きな時に連絡されています。ご利用者様に届く手紙やはがき等はそのままご家族やご本人にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床や柱は木のぬくもりを感じる事が出来、目に温かみを感じる事が出来るつくりになっています。季節にあわせた掲示物を行い、目で見て季節を感じる事が出来る様にしています。施設というよりも家庭的な雰囲気を感じる事が出来る様心掛けています。昨年に引き続き、感染対策として談話室テーブルにアクリル板を設置しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室は食事をするスペース以外にソファを置き、皆様思い思いの場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前、ご家族にご利用者の使用していた物や馴染みの物を持ち込める事・居室を自由に使用できることをお伝えしています。写真を飾ったり壁に飾りつけをされるなど、ご家族の協力の下、その方らしい居室づくりが出来る様心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口には表札を出しています。お部屋が分からなくなってしまう方は職員がさりげなく付き添い間違えないようにしています。また、ご利用者様が混乱すると思われるものは早めに取り除き安心して過ごせるように気を付けています。		